

自閉スペクトラム症の幼児をもつひとり親家庭の母親に対する 発達精神科外来看護師の支援

大 崎 舞 夕¹⁾ 澤 星 衣 佳¹⁾ 藤 田 千 春²⁾

1) 杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻（小児看護学研究室）4年

2) 杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻（小児看護学研究室）

【目的】

自閉スペクトラム症（以下、ASDとする）の幼児をもつ母親の育児負担は高いことが言われており¹⁾、母親がひとり親である場合、さらなる育児負担が想定される。そのため何らかの支援の必要性が考えられる。子どもがASDで診察など医療関与を受けている場合、発達精神科外来看護師（以下、看護師とする）が母親の身近な存在として支援していると思われるが、その実態は明らかでない。そこで、本研究の目的はASDの幼児をもつひとり親家庭の母親に対する看護師の支援を明らかにすることとした。

【方法】

A県の発達精神科外来で5年以上勤務する看護師4名に対して半構造化面接調査を行った。調査内容は、対象者の背景、母親の困難感に対する看護師の支援、母親とのコミュニケーション時の工夫についてである。音声データを逐語録化したものから、ASDの幼児をもつひとり親家庭の母親に対する看護師の支援の文脈を抽出し、コード化した。さらに類似性に基づき分類し抽象度を上げカテゴリー化した。なお、本研究は杏林大学倫理委員会の承認を得て行った（承認番号2023-15）。

【結果】

ASDの幼児をもつひとり親家庭の母親に対する看護師の支援は、4〔カテゴリー〕、23《サブカテゴリー》が抽出された。看護師は、《母親の状況に配慮した声かけをする》などの〔母親に寄り添う支援〕や《母親の子育て負担の軽減を図る》ことより、〔母親が子育てしやすくなる支援〕を行っていた。また、子どもの診察時の情報収集から《家庭に必要な支援を想定する》など〔母親個々の支援に向けたアセスメント〕をしていた。さらに、《家庭に必要な支

援が得られるように各職種に振り分ける》といった〔家庭のサポートのための多職種連携〕を行っていた。

【考察】

今回の調査で、看護師の支援は診察時の〔母親個々の支援に向けたアセスメント〕から家庭内の支援を検討していたことや〔母親に寄り添う支援〕が母親との会話時に行われていたことが明らかになった。また、看護師のアセスメントは、〔家庭のサポートのための多職種連携〕や〔母親が子育てしやすくなる支援〕につながっている様相も見出された。

看護師は、育児ストレスを抱えやすいと考えられるASDの幼児をもつひとり親家庭の母親に寄り添うことに加え、ASDの幼児の育児アドバイスなどを適宜行うことで、母親の心理面の支援に寄与していたと考えられた。また、育児ストレスを抱えやすい母親には、孤立無援にならないための支援ネットワークの強化が必要とされている²⁾。そのため、看護師は母親や家庭の状況を鑑み、多職種連携によって母親が必要な社会資源を享受することができるように関わる必要性が考えられた。

【謝辞】

本研究に取り組むにあたりインタビューにご協力いただいた外来看護師・職員の皆様、並びにご指導くださった藤田千春先生に深く感謝いたします。

【引用文献】

- 1) 酒井和香, 村上理絵, 南恭子. 自閉症児の母親が感じる心的負担に関する先行研究の概観. 特別支援教育実践センター研究紀要. 2019; 17: 1-9.
- 2) 周燕飛. 母親による児童虐待の発生要因に関する実証分析. 医療と社会. 2019; 29(1): 119-134.